

議長（中田文夫君） 3番 三鍋芳男君。

3番（三鍋芳男君） おはようございます。

私は1点について御質問させていただきます。

今後の自主財源の確保ということでございます。

平成18年度の予算は、極めて厳しい財政状況の中で、村財政構造の改善を進めつつ、住民のニーズに即した行政サービスを確保し、最少の予算で最大の効果が生まれるよう努められましたが、一方では、固定資産税や法人税の税率がアップされ、さらに駐車場の有料化と住民の負担が大きくなったことも事実であります。今後、交付税制度が見直され、交付税が削減されれば、今以上に厳しい財政状況となることが懸念されるわけでございます。

村が単独でいくにしろ、今後合併ということもあるにしろ、自主財源をどのように確保していくことが大事かということの村長の考えをお聞かせください。

以上です。

議長（中田文夫君） 金森村長。

村長（金森勝雄君） 3番三鍋芳男議員さんの御質問にお答えいたします。

御質問は、今後の自主財源確保のことでございますが、私が提案理由説明に先立ちまして所信の一端の中で述べました、平成19年度から国がスタートする三位一体改革の後期施策方針、いわゆる7月に発表されます「骨太方針」で、地方交付税の動向が明確になると思っております。増額基調を期待することは困難で、むしろ削減へと進むことが予測されますので、議員さん同様に厳しい財政状況になると懸念しております。

私は、昨年、村民の意見集約の機会といたしまして、タウンミーティングの実施、また行政改革懇談会、明日の農業を創造する会、情報づくり検討委員会を立ち上げまして、各界各層からの御意見、御提言をいただき、これらをもとに平成18年度予算編成の骨格といたしたところでございます。

議員さんも御承知のとおり、平成の大合併を望まず独立独歩の道を歩み出した本村は、いみじくも今年3月27日、日本一小さな自治体となり、県内外から注目されることになりました。また、国の農業施策も来年度から担い手農家、集落営農組織のみを支援することに大きく変換いたします。

私は、このような時期をとらえまして、村民の幅広いニーズ、要請にこたえるため、あるいはまた行財政の整合性と今後の村づくりの方向づけを図るために、平成13年度

スタートいたしました第3次総合計画の見直し、いわゆる後期計画の策定に取り組みまして、工程案と申しますか、御質問のありました自主財源等も土地利用計画もいろいろありましょう。そういったもろもろの課題に集中的に取り組みまして、そして計画にのせ実施していくのが大切であると私は今考えている次第でございます。もう一度言いますけれども、その中で自主財源も十分考えてまいりたいと、かように思っておる次第でございます。

そういったことで、何とぞ議員各位の御理解を賜りまして、総合計画の見直し、いわゆる後期計画の策定に皆さん方の格段の御理解を賜りますようお願いを申し上げまして、私の答弁にかえさせていただきます。

議長（中田文夫君） 三鍋芳男君。

3番（三鍋芳男君） 今の答弁ありがとうございます。

きのうの村長の提案理由の説明の中でも、先ほど一部触れられましたが、今までは人口面積主体としてやっていく、それによって交付税を出すことが少なくなるというのは現状でございます。それから、富山県ももちろんそうですし、各市町村も悩みは一緒だと思いますが、特に独立でいく町村においては、ますます深刻になる問題だと思います。

先ほど自主財源を確保して努力すると言われましたが、具体的にどのような方法でやられるのか、それが見えてこない、我々議員といたしましても、どうすればいいのかわかりません。我々の意見ももちろん、村長は舟橋村を背負う、リーダーシップをとる方でございますので、具体的にお答え願いたいというふうに思います。

以上です。

議長（中田文夫君） 金森村長。

村長（金森勝雄君） 今の再質問で、三鍋議員さんが具体的に答弁を願いたいということでございますけれども、先ほど答弁させていただいたとおり、これも一つの問題だけを考えて、自主財源が確保できたということは非常に危険だと私は思うわけでございます。

と申し上げますと、やはり舟橋村の面積なりいろんなところの条件、環境を考えていきますと、どういったことで物をはかるかといった場合に、ちゃんとした計画を持ってそれを進めていかないと、一方の、私は否定はしませんけれども、今現在、進出を考慮しておる、それだけの問題でないと思っております。ほかにいろいろとそういった自主財源を生むこともあると思っております。それは、皆さんとともにそういった各界各層の皆さま

ん方の意見を集約いたしまして、基本になるのは、3.47平方キロメートルの中の170ヘクタールの農地をどのように活用して自主財源の確保を図るか、これに尽きると思うんです。そういったことを皆さんとともに考え、そして知恵を出して、そういった計画にのせて実施していくのが私は一つの筋道だと思っております。

村長の考え、独断でやれるものでないと私は思っておりますので、そういう点を、十分御理解を賜りたいと思うのでございます。

以上、再質問に対する答弁とさせていただきます。

議長（中田文夫君） 三鍋芳男君。

3番（三鍋芳男君） もう1点あったんですが、先ほどの竹島ユリ子議員の村誌の関連から、村長は小学校の耐震調査が必要であり、そのへんに予算がかかるんだというふう

に答えておられました。

これに関して、そうなると、何としても自主財源というものを確保していかなきゃならんということになるわけでございます。

それと、19年度から米価が下がります。約5%ぐらい下がるかと思うわけでございます。それに対して農家においても、そうなれば、経営に対して、また米の値段が下がることで生活も大変になる。まして兼業農家ということで、農機具にもものすごく投資しなきゃならない。それと、先ほども言ったように、固定資産税も上がることであり、そういうことに関連しても、それによってまた農協の経営にも影響してくるということにつながるわけでございます。ですから、少しでも自分らの財源、村の財源をどうしても何かの形で確保しなきゃならない。

そしてまた、先ほど堀田議員さんの質問の中で商業地の話が出ました。これは、村が自分らでお金を出してやるわけではございません。その商業地自体は、業者のほうですべてやっていただけるということにつながるわけで、そういうことによって、大体6億円ほどの投資がかかります。それによって、村の例えば建設に係るものを含めてでございますので、地元の建設業者の方になるべくお願いする形をとることも一つの方法でありましょう。

今、国のそういう行事といいますか、建設関係、いろんなものが工事も少ないわけでございますので、もちろん民間もそうでございます。中小企業建設会社というのは、大変な思いをしている現状でございます。そういうことも含め、そしてまた商業地においては、雇用の確保、地元優先、人を使うという方法も生まれると思いますし、そしてま

た近くには、皆さん方が上市なり富山なり、立山町にいろんなものを買に行くと  
いう現状でございます。近くにあれば、舟橋の人たちがもしも買い物するならば、それが  
また村に対しても税が落ちるとのことにつながるわけでございます。そういった面で、  
もしもそういう話があるならば、いろんな方法で考えていく必要もあります。

先ほど堀田議員も言われました。議員にもその問題が提出されましたし、村長のほう  
にも提出されたと思いますので、そういうことも含めて、今後村の活性化のため、自主  
財源の確保のためにもなるように思うわけでございますが、村長のお考えをお願いいた  
します。

議長（中田文夫君） 金森村長。

村長（金森勝雄君） 再々質問にお答えしたいと思います。

私は、三鍋議員さんがどういうふうにとられているのか、ちょっとわかりにくい点がある  
わけございまして、別に私はそういう進出を否定しておるわけでないということ  
を御理解願いたいわけでございます。

その後、これは御承知のとおり、県知事許可でございますので、こういった土地や農  
地から宅地開発というか、やっぱり県の意向もあるだろうし、だから私は堀田議員さん  
の質問の中で十分に検討してまいると、こういうふうな話をしておるわけでありまして、  
それは、今おっしゃったとおり、自主財源の一端になる。それは、税収は入ります。し  
かし、だからといって、その話を中心的にこれだからこうやるという話ばかりしてい  
きますと、皆さんはいかがかなと。やはりいろんな面で農業の振興も図っていかなければ  
ならん、いろんな面を調整をしていかないと、最終的に言うたら、村の考えはどうなの  
かと県だってそう言いますよ。県の中に市町村があるわけですから、抑えるわけでない  
んですよ。県との中に調和といいですか、調整といいですか、均衡ある発展というのが  
当然あると思います。だから、村の施策がいつからそういう商業施設ゾーンの進出に考  
えが変わったのかということも説明をする資料として必要になってくるわけですね。

ですから、私もいろんな意味でこういう新しい視点で物を考えていく時期がまいった  
と。その背景は何かといいますと、くどいことになりますけれども、舟橋村が日本一小  
さな行政体になった。その先には、合併をしない村で、独立独歩で歩む道になった。そ  
れは、村民に理解をいただいた中でやっているわけでございますので、そういった面も、  
私一人でその道を選んだわけございませぬので、そういうことも考えていきますと、  
物の計画性、実施段階によっては、いろんなことから考えていくのがセオリーだと私は

思っております。

いろいろと利用者のいろんなことを言われましたけれども、それはそれとして物を考えていいわけだと私は思うわけです。断片的なものではつながってまいりません。やはり基礎になるものは何かと、住民のパワーでございます。そういったことも含めて物を考えていくのが行政の立場だと、リーダーだと私はそういうふうに思っております。

今後とも皆さん方のそういった御意見を拝聴しながら、行政の運営に努めてまいりますので、どうか叱咤激励を賜りますようお願い申し上げます、再々質問の答弁にかえさせていただきます。